教育・研究等業績一覧

		履	歴									
フリガナ	フジタ	マモル		生別								
7 7 7 7	7 2 3	マモル			生年	1079	左					
氏 名	藤田	守		男	土井	1972	1 2 +					
所 属	農学ビジネス学科		1	身 分	准教授							
		学	歴									
年 月												
1994年8月	Institute of Languages, The	•		Australia (~1995 年 4 月	1)						
1996年3月	拓殖大学 政経学部 経			7 Iustraira (1000 100							
1998年3月	国立台湾師範大学国語教											
1999年9月	東呉大学(台湾)外国語文学院 修士課程 入学											
2001年8月	東呉大学(台湾)外国語	文学院 修士課程 修丁										
2002年1月	東呉大学(台湾)修士(言語学)										
		職	歴									
年 月												
1996年4月	ビッグホリデー株式会社	(東京都,旅行業)入社			₩担当(~199	7年3月)						
1997年4月	同社総務部付,コミュニ	ティ・ネットワーク株式					ペテム事業部,					
	コンピューター端末保守											
1998年6月	福爾摩沙地球村語文短期			5月)								
1999年6月	協易機械股份有限公司(
1999年12月	台湾松下電器股份有限公											
2000年3月	東呉大学(台湾)公開講											
2002年10月	財団法人資訊工業策進会											
2003年9月 2003年9月	国立中正紀念堂 公開講			(- 2004 年	1 日)							
	世新大学(台湾)人文社会学院 日本語文学科 非常勤講師(~2004年1月)											
2004年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 専任講師 (~2007年3月)											
2004年4月			币 (~2007 年	F3月)								
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(耶	币 (~2007 ^全 截位名改称)(F3月) ∼2009年3								
2007年4月 2009年4月	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(耶 経営経済科 准教授	币 (~2007 ⁴ 競位名改称)((~2014 年:	F3月) ~2009年3 3月)								
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(駅 経営経済科 准教授 農学ビジネス学科 A	而 (〜2007 ⁴ 競位名改称)(・ (〜2014 年: <u></u> 進教授 現在に	F3月) 〜2009年3 3月) ご至る								
2007年4月 2009年4月 2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(耶 経営経済科 准教授	币 (~2007 ⁴ 競位名改称)((~2014 年:	F3月) 〜2009年3 3月) ご至る								
2007年4月 2009年4月 2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(駅 経営経済科 准教授 農学ビジネス学科 A	而 (〜2007 ⁴ 競位名改称)(・ (〜2014 年: <u></u> 進教授 現在に	F3月) 〜2009年3 3月) ご至る		備	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(単語 経営経済科 准教授 農学ビジネス学科 インタイン ・ ・・ 農学 ・・ 大会 ・・ 大会 ・・ 大会 ・・ 経営経済科 ・・ は教 ・・ 大会 ・・ 経営経済科 ・・ は教 ・・ を持たる。	而 (~2007 ⁴ 織位名改称)(· (~2014 年 <u>2</u> 維教授 現在に 業 績	F3月) ~2009年3 3月) ご至る i	月)	備	考					
2007年4月2009年4月2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(単語)経営経済科 准教授農学ビジネス学科 を	而 (~2007 年 議位名改称) ((~2014 年 注 生教授 現在に 業 続 期別	F3月) ~2009年3 3月) 三至る i	月)	備	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(単語 経営経済科 准教授 機学ビジネス学科 を	而 (~2007 年 織位名改称) (- (~2014 年 注 維教授 現在に 業 積 期別 前期	F3月) ~2009年3 3月) 三至る i 曜日 月	月) 時限 2	備	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2年ゼミナール	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	経営経済科 助教(単語)経営経済科 准教授農学ビジネス学科 を	ボ (~2007 f 競位名改称) (· (~2014 年 : 維教授 現在に 業 続 期別 前期 前期	F 3 月) ~2009 年 3 3 月) —至る 【 曜日 月	月) 時限 2 3	備 1年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 准教授	## (~2007 f ## (~2014 年: ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	F 3 月) ~2009 年 3 3 月) 三至る [曜日 月 木	月) 時限 2 3 4	1年生2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目(2016 年度) 目 名	経営経済科 助教 (単 ・経営経済科 准教授 ・農学ビジネス学科 を 教 育 出講場所 演習室 3 演習室 5 演習室 3 205 教室 205 教室 205 教室	ボ (~2007 f 歳位名改称) (· (~2014 年 : 佳教授 現在に 業 続 期別 前期 前期 前期 前期 前期	F 3 月) ~2009 年 3 3 月) 三至る 【 曜日 月 木 月 月	月) 時限 2 3 4 5	1年生 2年生 1年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 II 中国語コミュニク 中国語コミュニク	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目(2016 年度) 目 名	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 化教授 機学ビジネス学科 内 教 育	ボー (~2007 st 歳位名改称) (· (~2014 年 : 主教授 現在に 業 編 期別 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 三至る [曜日 月 木 月 月 火	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3	1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 中国語コミュニク 総合日本語 I	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目(2016 年度) 目 名	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 性教授 機学ビジネス学科 内	ボー (~2007 st 厳位名改称) (・ (~2014 年 : 主教授 現在に 業 期別 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る [曜日 月 木 月 八 八 八 大	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I や国語コミュニク 中国語コミュニク 総合日本語 I 総合日本語 I	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション II	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 地教授 機学ビジネス学科 内	## (~2007 年 銀位名改称)((~2014 年: 生教授 現在に 業	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る [曜日 月 木 木 月 月 火 火 木 水	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 中国語コミュニク 中国語コミュニク 総合日本語 I 総合日本語 I 総合日本語 I 日本語コミュニク	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 地教授	## (~2007 factors with the content of the content	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) - 至る i 曜日 月 木 木 月 月 火 火 木 水 水	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007 年 4 月 2009 年 4 月 2014 年 4 月 2014 年 4 月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2 年ゼミナール 1 年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 総合中国語 I や国語コミュニク や国語コミュニク 総合日本語 I 日本語コミュニク	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 地教授 機学ビジネス学科 内	## (~2007 年 銀位名改称)((~2014 年: 生教授 現在に 業	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る [曜日 月 木 木 月 月 火 火 木 水	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 中国語コミュニク 中国語コミュニク ・ 総合日本語 I 総合日本語 I 総合日本語 II	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 地教授	## (~2007 factors with the content of the content	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) - 至る i 曜日 月 木 木 月 月 火 火 木 水 水	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 総合中国語 I 総合日本語 I 総合日本語 I 総合日本語 I との日本語 I をの日本語 I との日本語 I との日本語 I との日本語 I との日本語 I との日本語 I との日本語 I との日本語 I	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 地教授 農学ビジネス学科 が	ボー (〜2007 st 酸位名改称) (・ (〜2014 年: 主教授 現在に 業 期別 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る [曜日 月 木木月月	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007 年 4 月 2009 年 4 月 2014 年 4 月 1 担当授業 キャリアスキル 2 年ゼミナール 1 年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 中国語コミュニク中国語コミュニク統合日本語 I 総合日本語 I 日本語コミュニク	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 地教授 農学ビジネス学科 が	(~2007 £	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) - 至る - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「	時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007 年 4 月 2009 年 4 月 2014 年 4 月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2 年ゼミナール 1 年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 総合中国語 I 総合日本語 I 総合日本語 I 日本語コミュニク 中本語コミュニク	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 地教授 農学ビジネス学科 が	ボー (〜2007 st 酸位名改称) (・ (〜2014 年: 主教授 現在に 業 期別 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期 前期	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る [曜日 月 木木月月	時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 II 中国語コミュニク 中国語コミュニク 総合日本語 I 総合日本語 I 総合日本語 I 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 2年ゼミナール	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 地教授	(~2007 £ 截位名改称)(F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) - 至る	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 1 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 II 中国語コミュニク 中国語コミュニク 中国語コミュニク 総合日本語 II 総合日本語 II 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 年本語コミュニク 年本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク 日本語コミュニク	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 科目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション I	 経営経済科 助教(単語 経営経済科 准教授	 (~2007 を	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 三至る [月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 総合日本語 I 総合日本語 I 経合日本語 I 2年ゼミナール 日本語コミュニク卒論演習 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 村目 (2016 年度) 目 名ション Iション Iション Iション I	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 性教授 機学ビジネス学科 内 教 育 出講場所 演習室 3 演習室 5 演習室 3 205 教室 205 教室 205 教室 102 教室 ラボ室 102 教室 102 X 102	 (~2007 を	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る [曜日 月木木月月 火火木水水火 八火木水水水火 月木木月 月木木月月 八火木水水火 月木木月 月木木月 日本木月 日本木月 日本木月 日本十月 日本十月	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 2014年4月 1 担当授業 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 総合日本語 I 総合日本語 I 経合日本語 I 経合中国語 II	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 村目 (2016 年度) 目 名ションIションIIションII	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 性教授 機学ビジネス学科 内 教 育 出講場所 演習室 3 演習室 5 演習室 3 205 教室 205 教室 205 教室 102 教室 102 教室 102 教室 102 教室 102 教室 102 教室 205 教室 	 (~2007 を	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至 曜日 月 木木月月 火火木水水火 月 木木月月 月	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1 2	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					
2007年4月 2009年4月 2014年4月 2014年4月 1 担当授業: 科 キャリアスキル 2年ゼミナール 総合中国語 I 総合中国語 I 総合日本語 I 日本語コミュニク 中本語コミュニク 年満習 キャリアスキル 2年ゼミナール 1年ゼミナール 総合日本語 I 日本語コミュニク 本語コミュニク 本語コミュニク を論演習	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学 村目 (2016 年度) 目 名ションIションIIションII	 経営経済科 助教 (単語 経営経済科 推教授 農学ビジネス学科 を	 (~2007 を 銀位名の称)(・ (~2014年: 性教授 現在に 期別 前前期期前前前期期前前前期期前前前期期前前前期期前前前期期前前前期期前前	F 3 月) ~ 2009 年 3 3 月) 二至る 「 曜日 月 木 木 月 月 火 火 木 水 水 火 月 木 木 月 月 火 火 木 水 水 火	月) 時限 2 3 4 5 4 4 3 2 2 1 2 1 3 4 4 4	1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生 1年生 2年生	考					

日本語コミュニケーションⅡ	102 教室	後期	水	1	1年生
日本語コミュニケーションⅡ	102 教室	後期	水	2	2 年生
地域プロジェクト	演習室3	後期	木	5	
地域特別演習	演習室3	後期	木	5	
卒論演習					

2 現行授業の目標と教育 効果及びそれに対する 自己評価

(記述式:900字以内)

- (1) 現行授業の目標(以下、平成28年度授業改善のための学生アンケート集計結果より)
- 中華文化や日中関係の理解、語学力向上を目標とした。こうした活動を通じて授業の活性化と学習効果の向上を目標とし、従来の取り組みの中で以下4点をさらに強化した。
 - ①第2外国語学習は難しそうというイメージの払拭と語学学習継続後のイメージの醸成
 - ②報道内容と国民意識の実際との明確な相違点の提示による相互理解の促進
 - ③語学学習や文化に関する情報提供を通じての教養レベルのさらなる高揚
 - ④学習目的に応じた情報の提供による学習成果の自覚
 - ⑤語学習得やその必要性に懐疑的な学習者のアプローチ方法を取り入れた授業運営

(2) 教育効果

I-1, 評価 4.3 II-1, 評価 4.3 II-2, 評価 3.3 II-3, 評価 4.1 II-4, 評価 3.1 II-5, 評価 4.4 II-6, 評価 4.4 II-7, 評価 4.4 II-8, 評価 3.9 III-1, 評価 4.4 III-2, 評価 4.3 III-3, 評価 4.4

⑦自由記述 1 先生が親身になってくれました。2 中国語に対する理解が深まった。3 先生とのコミュニケーションが活発であり不明な点を聞きやすい環境であった。4 一つ一つ詳しい解説や時には中国、台湾の文化も交えての授業展開に中国語をより興味を持って学ぶことができた。5 説明においてはわかりやすかった。6 とても楽しく中国語が学べました。7 先生がよく中国の生活や日本ではありえないことをたくさん話してくれるので、興味がたくさん沸いた。

- ① I-1 (評価 4.3), Ⅱ-2 (評価 3.3) や自由記述 1,2 により、おおむね達成された。
- ②Ⅲ-2 (評価 4.3) や自由記述 7 により、おおむね達成された。
- ③Ⅲ-1 (評価 4.4),Ⅲ-3 (評価 4.4) 自由記述 4 によりおおむね達成された。
- ④授業を通した中で中国語検定に関する情報を提供した結果、2016 年 11 月 4 級検定に 1 名が受験し合格を果たした。
 - ⑤Ⅱ-5 (評価 4.4) Ⅱ-6 (評価 4.9) Ⅱ-7 (評価 4.4) や自由記述 3,5,6 からおおむね達成された。

(3) 自己評価

中国語科目を履修する学習者のうち編入希望者ほぼ全員が必修という位置づけで、なおかつ第2外国語の選択もできないという低い期待値で一から学習を開始した学習者が2年目を迎える。

学習難易度が高まり、学習動機の維持が課題となる中、我々が普段送る生活と学習内容のかかわりを 意識させることは、語学学習目的の明確化や学習意識の高揚のみならず広く教養レベルを向上させるこ とにつながると考えている。

こうした点が、学習者に受け入れられたことがアンケート結果等に反映されており、最終的に無事学 習を修了することができた点を考慮すると教員学生双方にとって有意義な授業時間を過ごすことができ たものと再認識する結果となった。

3 学生による授業評価も 踏まえ、教育改善への 取り組み

改善に向けた今後の取り組み方針は、授業の難易度が上がる中で、なお、学習目標を明確にして取り組む学習者が増えてきていることから、次年度は卒業後も継続的に中国や台湾、中国語に対する興味関心を維持継続させられるような情報の提供や自学自習方法など具体的な学習ストラテジーを提供することである。

(記述式:900字以内)

4 教科書,教材の作成状 況

(記述式:300字以内)

- 1. 教科書本文・単語関連の絵教材(対象科目:総合中国語ⅠⅡ・中国語コミュニケーションⅠⅡ)
- 2. Blackboard を活用した全文ディクテーション課題(対象科目:総合日本語 $I \ II \cdot$ 日本語コミュニケーション $I \ II$)

5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)

(主要 10 件以内)

2004 年度	中国語検定準4級,4級 個別対策講座
2005 年度~現在に至る	中国語検定試験(6月・11月)学内試験運営管理
2006 年度~2007 年度	シーズンスポーツ同好会顧問
2009年8月	処分学生に対する指導(全 16 回)
2010年11月,2011年10月	国際交流パーティー(深川国際交流協会)対象留学生スピーチ指導
2010年12月,2011年11月, 2013年11月,2015年10月, 2016年10月	国際交流パーティー(深川国際交流協会)引率
2012年6月~(毎年6月)	インターナショナルデー(深川国際交流協会)発表指導及び引率
2013年7月~ (毎年7月)	しゃんしゃん傘踊り実行委員会指導(学生委員会,学生・地域国際交 流委員会)
2013年11-12月	経営経済科卒業制作実行委員会・委員
2016年1-2月	海外研修上海研修者事前研修指導(対象者3名、全3回)
2016年10月	海外研修参加者対象事後研修指導
2015年9月, 2016年5月	市民公開中国語講座(全7回)(主催:本学地域国際交流委員会)

6 その他

(主要5件以内)

	研 究	業績					
1 研究分野・活動 (記述式:350 字以内)	明確な意味分別には超分節的特能となる。その一方、中国語も続時間の制御規則に関する研究されるが、日本人中国語学習者の限りでは十分とはいいがたい	徴を適切に制御すること 日本語も音節、モーラの は十分にとはいえない。 の発音の実態についても 。目下の研究課題は中国	上で重要な役割を果たす要因である。音声による とで、自然なコミュニケーションや意思伝達が可 免さによる意味の分別があるにも関わらず、持 日本人中国語学習者が日本語の影響を受けると も、聴解、発話の対策やその効果の検討も、管見 国語、日本語の発話における自然性の向上を目指 者と学習者の発話データを対比させ総合的に検討				
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む)	習一全文ディクテーション課題 8名を対象に休暇中の Blackboa	の取り組み結果とその記 ard による学習状況と学	arning システムを活用した長期休暇中の聴解学平価一」において、多様な日本語レベルの留学生 習効果、取り組みのアンケート結果を報告した。				
(記述式:350字以内)	他 (2002)、アンケート結果か による学習の評価は藤田他 (20	ら、全文ディクテーショ 11)と、概ね同様の肯領 Blackboard は休暇中の	学習管理をある程度可能にすること、各群の取り				
	(1) 文部科学省科学研究費						
(主要5件程度)	特になし						
	(2) 学内						
	2010年度 拓殖大学人文科学研究所個人研究助成						
	2016 年度 拓殖大学言語文化研究所個人研究助成						
	(3) 学外						
	特になし						
4 資格・特許等 (主要3件以内)							
	 	発行又は発表					
著書,学術論文,作品等の (主要 15 件以内)	名称 ^{単者,} 発行又は発表 共著 の別 の年月	雑誌等又は発表 学会等の名称	要約				
(学位論文)							
			第二言語学習者が、目標言語話者と誤解のない円滑なコミュニケーションを行うには、そ				

著書, 学術論文, 作品等の名称 (主要 15 件以内)			発行文は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要約	
(学位論文)					
中国語母語話者の日本語発話における モーラ持続時間の特性 - 台湾出身者と 東京語話者の発話データを比較対照し て -	単	2002年1月	東呉大学修士論文. 200 頁	第二言語学習者が、目標言語話者と誤解のない円滑なコミュニケーションを行うには、その根底にある自然な言語のリズムではその基本は欠かせない.日本語のリズムではその基本単位とされるモーラの構成要素に、持続時間がしばしば挙げられているが、中国語母語話者の日本語発話に関する研究すら現状ではあまりなされていないので、発話の実態は不明な点が多い.従って、まず、中国語母語話者の日本語発話における時間的傾向の体系化とその問題点の指摘を本研究の目的とした.	
(学術論文)					
北海道短期大学における日本語教育	単	2013年2月	日本語教育の歩みー 拓殖大学日本語教育 五十周年記念誌ー pp. 118-125	拓殖大学北海道短期大学の留学生の受け入れ の経緯と教育活動・客員講師の招聘・課外活 動の取り組みなどをまとめた上で,今後の課 題について論じた.	

入学準備教育における学術的学習サイクルの適用 - e-learning システムによる日本語学習の意識調査とその結果 -	共	2011年10月	拓殖大学人文科学研究所紀要第 26 号pp38-70	本研究の目的は遠隔地の留学生を対象に学習内容を日本語聴解に限定してelearningシステムによる入学準備教育を実施し、その教育方法や学術的学習サイクルの適用の有効性を確認することである。本稿においては、教材利用回数など実施状況のデータ、アンケートによる意識調査や年度別の日本語能力試験合格率をもとに検討した。その結果、学習前から学習後にかけて「日本語を聞く」ことに対する意欲は維持され自信は肯定的に変化し、本教育に対する達成感や満足感を得ていることが確認された。更に、日本語能力試験合格率は本教育を受けたグループの方が受けなかった過去のグループより高いという傾向が示された。
Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System	共	August,2011	International Journal of Computer Science and Information Security, Vol.9, No.8 pp.32-38.	At universities, new students' scholastic achievements have become more varied because of the university's increased entrance ratio. Each university must now work to improve new students' scholastic achievements. This study aims to develop a system to ensure new students' scholastic achievements. We implemented the pre-school education program using an e-learning system in the three months before entering a university and investigated the program's effects. The targets include the participating and non-participating new students. The investigation data are students' attendance and question responses after entering college. Results of attendance and question response data showed that participating new students maintained study habits after entering school.
拓殖大学北海道短期大学における e-learning システムを活用した入学準備 教育 - 入学準備教育の実施と今後の課題 -	共	2011年3月	拓殖大学人文科学研究所紀要第 25 号pp75-96.	拓殖大学北海道短期大学では、2003 年度の AO 入試の開始と同時に入学準備教育を導入した.また、経営経済科では 2010 年 1 月から 2010 年 3 月までの 3 ヶ月間、学習習慣の維持には、学習管理と双方向性が必要であると考え、e-learning システムを活用して実施した.実施結果より、現在大学が置かれている環境から、入学準備教育の必要性を確認した.第 2 章では、拓殖大学北海道短期大学経営経済科において 2009 年度に e-learning システムを活用して実施した入学準備教育の概要と学習状況について述べた.続く第 3 章では受講後に受講生を対象に行った入学準備教育の評価に関するアンケート調査の結果を述べ、第 4章では実施結果に関して考察した.第 5 章では今後の課題と改善方法を検討した.
中国語母語話者の日本語発話における 助詞の軽声化とその原因 - 2 モーラ語の単語発話と文節発話の比 較 -	単	2008年10月	拓殖大学語学研究 118号 pp.13-30	本稿により明らかとなった点は以下のとおりである。中国語の文法上の付属語である「助詞」はすべて軽声で発話され、長さが短いが日本語の助詞には長さの特徴はない。中国語母語話者は日本語の付属語に当たる助詞をも中国語の付属語と同じと考えている可能性がある。 尾高型は単語発話ではアクセント核はないが、文節発話では尾高型発話はアクセント核が生じるため混乱しがちであり、助詞のモーラには母語で使い慣れている中国語の軽声が使われたと考えられる。 以上から、学習者が母語である中国語の「第四声+軽声」というアクセントで日本語の「単語の語末+助詞」を読み上げている傾向が示唆された。

中国語母語話者の日本語文節発話のモーラ持続時間 -1モーラ語から4モーラ語の語末と助詞の長さの特徴・	単	2007年9月	東呉外語学報第25期 pp.81-114	中国語母語話者の文節発話は助詞の前の語末 モーラの持続時間が長音化すると仮説をたて 中国語母語話者の上級者と初級者,東京語話 者の発話実験を行った. その結果,東京語話者は平板式と起伏式アク セントで語末と助詞は「短・長」傾向であっ た.平板式アクセント発話では中国語母語話 者の初級者・上級者ともに東京語話では中国語 であった.起伏式アクセント発話では中国語 を記れるとなるとなるとなった。
				母語話者の上級者は東京語話者と同様だが, 初級者は [長・短] であった.
中国語母語話者の語末長音化現象 - 単語発話における日本語モーラ持続 時間の特徴 -	単	2005年9月	東呉外語学報第21期 pp.41-71	語末伸長化現象(final lengthening)とは、韻律境界前でセグメントが伸長される現象である。中国語ではポーズ前の音節母音の持続時間が伸長する。本研究では、日本語にもある語末伸長化現象が、中国語話者の日本語発話でもあるのか明らかにすることを目的とし、中間言語研究の観点から、中国語話者(上級者・初級者)と東京語話者の発話を調査した。
中国語母語話者の日本語モーラリズム - モーラ数とモーラ持続時間の相関関係 -	単	2003年7月	東呉日語教育学報 第 26 期 pp.243-274	本稿は中国語母語話者と東京語話者の日本語発話におけるモーラリズムがどのように現れるかを検証したものである。 東京語話者5名と台湾出身の中国語母語話者11名(上級者群6名・初級者群5名)の1-4モーラの無意味語を用い東京アクセント型による発話の録音とその持続時間の測定をした。モーラ数と持続時間の相関関係を表す線の直線性・語全体における各モーラの平均持続時間の算出を行い、三者を比較した。
中国語母語話者の日本語発話における モーラ持続時間に関する初歩的研究 - 発音調査報告 -	単	2002年7月	東呉日語教育学報 第 25 期 pp.85-118	誤解のない円滑なコミュニケーションを行うには、自然な言語のリズムが欠かせない、中国語母語話者の日本語発話における時間的傾向の把握を本稿の目的とし、東京語話者 5 名と台湾出身の中国語母語話者 11 名(上級者群 6名・初級者群 5名)の1-4モーラの無意味語を用い東京アクセント型による発話の録音とその持続時間の測定をした。そして、発話データに関するモーラの持続時間・全体に占める各モーラの持続時間の割合・持続時間のばらつきの算出を行い、三者を比較した。
(学会等発表)				
多様な日本語レベルのクラスにおけるe-learningシステムを活用した長期休暇中の聴解学習―全文ディクテーション課題の取り組み結果とその評価―	単	2016年9月10日	2016 年日本語教育国際研究大会研究論文発表	本研究は、多様な日本語レベルの留学生 8 名を対象に休暇中の Blackboard による学習状況と学習効果、取り組みのアンケート結果を報告した。 一連の学習プロセスの結果に基づき、取り組み回数や複数回の学習の割合と学習効果に関しては杉浦他(2002)、アンケート結果から、全文ディクテーション取り組みの評価は元田(2014)、Blackboard による学習の評価は藤田他(2011)と、概ね同様の肯定的な評価傾向が確認された。これらに加え、本研究では Blackboard は休暇中の学習管理をある程度可能にすること、各群の取り組みの特徴が日本語レベルの測定手段としての可能性がある点にも言及した。
マルチメディア・コンテンツを活用した 入学準備教育における出題方法の改善 と情報教育科目の評価	共	2011月9月8日	平成23年度教育改革 ICT 戦略大会予稿集 社団法人私立大学情 報教育協会	課題の解説にマルチメディア・コンテンツを活用して出題方法を改善し、入学準備教育を実施した。その結果、入学前では改善前よりも改善後の受講生が学習習慣を維持し、各章での受講生の取り組みは問題の趣旨を理解した解答に改善された。

日本語解析の表現とならい。			T	T	
世界学生2台げるマルチメディア・コン フンツを活用した。e-learning システム による人学学価教育の教育効果 共 2011 月 5 月 3 日	ステムによる入学準備教育	共	2011月8月21日	教育研究 2, pp. 295-297, 修刚, 李运博(編) 高等教育出版社(中	学の留学生にも散見されるため、学習習慣の確立と聴解能力の向上を目的とする入学準備教育を2010年より留学開始3カ月前の留学生を対象に実施している. 2011年における本教育実施後のアンケート結果によると、「聞く」「話す」共に自信に対する評価が向上して改善傾向が認められた。また、自由記述による評価も概ね肯定的であり、本教育の修了時には学習習慣の形成がなされていたと考える。さらに、入学後に実施した試験結果によると、本教育の取り組みの程度と入学後の聴解力の向上の程度は一定の関係があり、入学後の取り組みにも影響を与えていることが確認され
大学準備教育に活用できるコンテンツ 自動作成システムの評価 共 2010月9月3日 平成22年複教育の にT 戦分を予確 東地信助法人私立大学情 報教育協会 場所から3月の3ヶ月間。cleaming 大会と活用し、社会科学系短期大学の日本 大学生を開始大学を最近た、本研究では、この学 電対象とした入学準備教育を実施した。本研究では、この学 電対象とした入学準備教育を実施した。本研究では、この学 電対象とした入学権 優教育における e-learning システムの店 用 共 2010月7月3日 日本教育工学会 研究報告集 研究報告集 が完全の表別をとした入学権 優教育における e-learning システムの店 用 大学生機教育のための e-learning 教材として、 マカチディア・コンランツを開発した。語 電力、文章の読み方、講義ノートの取り方と 電子型向ける日本語がある。評価が得られたものの。 電子型向ける日本記録といるのた。 と選者から高い評価が得られたものの。 出地にはいました。語 ないしいでおける と認定のよりました。語 ないにないましましましましましましましましましましましましましましましましましましまし	テンツを活用した e-learning システム	共	2011月5月3日		e-learning システムによる人学準備教育を、 短期大学の社会科学系学科で実施した。 その結果、マルチメディア・コンテンツを活用 して教材や課題の出題方法を工夫したことに より、受講生の学習への取り組み方が改善さ れた.また、入学準備教育の受講生が入学後に 受講する情報教育科目で学習習慣を維持する
短期大学の入学者を対象とした入学権 備教育における e-learning システムの活		共	2010月9月3日	ICT 戦略大会予稿集 pp.216-218 社団法人私立大学情	期大学では入学予定者に対する入学準備教育の実施を求められている。この要求に対して、2010年1月から3月の3ヶ月間,e-learningシステムを活用し、社会科学系短期大学の日本人学生と留学生の入学予定者を対象とした入学準備教育を実施した。本研究では、この学
世 2008年10月 日本語ジャーナル 1月号 pp.37-42 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 日本語ジャーナル 7月号 pp.38-41 電話対応・受付・応接室で一応用編一 単 2008年6月 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 電話対応・受付・応接室で一応用編一 単 2008年6月 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 電話対応・受付・応接室で一応用編一 単 2008年7月 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 世 2008年7月 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 時権日本語雜誌』通参第 253号、鴻儒堂出版社 1月 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 時権日本語雜誌』通参第 253号、鴻儒堂出版社 1月号 pp.38-41 時権日本語雜誌』通参第 253号、鴻儒堂出版社 1月号 pp.38-41 日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 明確付日本語雜誌』通参第 255号、鴻儒堂出版社 1月号 pp.38-41 明確付日本語雜誌』通巻第 255号、鴻儒堂出版社 1月日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 明確付日本語雜誌』通巻第 253号、鴻儒堂出版社 1月日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 明確付日本語雜誌』通巻第 253号、鴻儒堂出版社 1月本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 明確付日本語雜誌』通巻第 253号、鴻儒堂出版社 1日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 明確付日本語雜誌』通巻第 251号、鴻儒堂出版社 1日本語ジャーナル 1月号 pp.38-41 明確付日本語述書記書 1月本語ジャーナル 1月本語ジャーチ語ジャーナル 1月本語ジャーナル 1月本記述 1月本記述 1月本記述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述	備教育における e-learning システムの活 用	共	2010月7月3日	研究報告集	マルチメディア・コンテンツを開発した. 語彙力, 文章の読み方, 講義ノートの取り方と留学生向け日本語会話能力の四つを準備した. 受講者から高い評価が得られたものの,
## Action of a Pre-School Education of a Pre-School Education Program Using an E-learning System (summary) ## Action Program Using an E-learning System in the International University ## Action Program Using an E-learning System in the International University University, It was published in "Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System in the International Journal of Computer Science and Information Security (2011; Vol. 9, No. 8, pp. 32–38). 初対面の人との話題	(その他)				
# 2008年12月 12月号 pp.37-42 鴻儒堂出版社 会話の円滑な終わらせ方 単 2008年11月 日本語ジャーナル 11月号 pp.37-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 258号, 鴻儒堂出版社 オフィスに氾濫する二重敬語 単 2008年10月 日本語ジャーナル 10月号 pp.37-42 鴻儒堂出版社 一般社員の朝礼の挨拶 単 2008年9月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 256号, 鴻儒堂出版社 管理職の朝礼の挨拶 単 2008年8月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 256号, 鴻儒堂出版社 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 255号, 鴻儒堂出版社 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 255号, 鴻儒堂出版社 カかりやすい説明の仕方 単 2008年7月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 254号, 鴻儒堂出版社 アフターファイブ 単 2008年6月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 253号, 鴻儒堂出版社 電話対応・受付・応接室で一応用編ー 単 2008年5月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 253号, 鴻儒堂出版社 「『階梯日本語雑誌』通巻第 253号, 鴻儒堂出版社 「『階梯日本語雑誌』通巻第 251号, 鴻儒堂出版社 「『階梯日本語雑誌』通巻第 250号, 鴻儒堂出版社 「『階梯日本語雑誌』通巻第 250号, 鴻儒堂出版社	Education Program Using an E-learning	共	Octber,2011	Humanities and Sciences,No26 Institute for Reserch in theHumanities,Takush	made possible by a grant-in-aid for individual research, in fiscal year 2010, from the Institute for Research in the Humanities at Takushoku University. It was published in "Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System" in the International Journal of Computer Science and Information
会話の円滑な終わらせ方単2008 年 11 月11 月号 pp.37-41鴻儒堂出版社オフィスに氾濫する二重敬語単2008 年 10 月日本語ジャーナル 10 月号 pp.37-42『階梯日本語雑誌』通巻第 257 号, 鴻儒堂出版社一般社員の朝礼の挨拶単2008 年 9 月日本語ジャーナル 9 月号 pp.37-41『階梯日本語雑誌』通巻第 256 号, 鴻儒堂出版社管理職の朝礼の挨拶単2008 年 8 月日本語ジャーナル 8 月号 pp.38-41『階梯日本語雑誌』通巻第 255 号, 鴻儒堂出版社わかりやすい説明の仕方単2008 年 7 月日本語ジャーナル 7 月号 pp.38-41『階梯日本語雑誌』通巻第 254 号, 鴻儒堂出版社アフターファイブ単2008 年 6 月日本語ジャーナル 6 月号 pp.38-41『階梯日本語雑誌』通巻第 253 号, 鴻儒堂出版社電話対応・受付・応接室で一応用編ー単2008 年 5 月日本語ジャーナル 5 月号 pp.38-41『階梯日本語雑誌』通巻第 252 号, 鴻儒堂出版社ビジネスにおける日本式名刺交単2008 年 4 月日本語ジャーナル 4 月号 pp.38-41『階梯日本語雑誌』通巻第 251 号, 鴻儒堂出版社ビジネスにおける日本式名刺交単2008 年 3 月日本語ジャーナル 1 『階梯日本語雑誌』通巻第 250 号, 鴻儒堂出版社	初対面の人との話題	単	2008年12月		鴻儒堂出版社
# 2008年10月 10月号 pp.37-42 鴻儒堂出版社 一般社員の朝礼の挨拶 単 2008年9月 日本語ジャーナル 9月号 pp.37-41 鴻儒堂出版社 管理職の朝礼の挨拶 単 2008年8月 日本語ジャーナル 8月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 255号, 鴻儒堂出版社 わかりやすい説明の仕方 単 2008年7月 日本語ジャーナル 7月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 254号, 鴻儒堂出版社 アフターファイブ 単 2008年6月 日本語ジャーナル 6月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 253号, 鴻儒堂出版社 電話対応・受付・応接室で一応用編ー 単 2008年5月 日本語ジャーナル 5月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 252号, 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける日本式名刺交 単 2008年4月 日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 251号, 鴻儒堂出版社 レジネスにおける日本式名刺交 単 2008年3月 日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 251号, 鴻儒堂出版社	会話の円滑な終わらせ方	単	2008年11月	11 月号 pp.37-41	鴻儒堂出版社
一般社員の朝礼の挨拶単2008年9月9月号 pp.37-41鴻儒堂出版社管理職の朝礼の挨拶単2008年8月日本語ジャーナル 8月号 pp.38-41『階梯日本語雜誌』通巻第 255号, 鴻儒堂出版社わかりやすい説明の仕方単2008年7月日本語ジャーナル 7月号 pp.38-41『階梯日本語雜誌』通巻第 254号, 鴻儒堂出版社アフターファイブ単2008年6月日本語ジャーナル 6月号 pp.38-41『階梯日本語雜誌』通巻第 253号, 鴻儒堂出版社電話対応・受付・応接室で一応用編ー単2008年5月日本語ジャーナル 5月号 pp.38-41『階梯日本語雜誌』通巻第 252号, 鴻儒堂出版社ビジネスにおける日本式名刺交単2008年4月日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41『階梯日本語雜誌』通巻第 251号, 鴻儒堂出版社ビジネスにおける母体の仕方単2008年3月日本語ジャーナル 18 「階梯日本語雜誌』通巻第 250号,	オフィスに氾濫する二重敬語	単	2008年10月	10月号 pp.37-42	鴻儒堂出版社
管理職の朝礼の疾疹 単 2008年8月 8月号 pp.38-41 鴻儒堂出版社 わかりやすい説明の仕方 単 2008年7月 日本語ジャーナル 7月号 pp.38-41 『階梯日本語雜誌』通巻第 254号, 鴻儒堂出版社 アフターファイブ 単 2008年6月 日本語ジャーナル 6月号 pp.38-41 『階梯日本語雜誌』通巻第 253号, 鴻儒堂出版社 電話対応・受付・応接室で一応用編ー 単 2008年5月 日本語ジャーナル 5月号 pp.38-41 『階梯日本語雜誌』通巻第 252号, 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける日本式名刺交 単 2008年4月 日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41 『階梯日本語雜誌』通巻第 251号, 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける母体の仕方 単 2008年3月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雜誌』通巻第 250号,	一般社員の朝礼の挨拶	単	2008年9月	9月号 pp.37-41	鴻儒堂出版社
7月号 pp.38-41 アフターファイブ 単 2008年6月 日本語ジャーナル 6月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 253 号, 鴻儒堂出版社 日本語ジャーナル 6月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 253 号, 鴻儒堂出版社 日本語ジャーナル 5月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 252 号, 鴻儒堂出版社 日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 251 号, 鴻儒堂出版社 『階梯日本語雑誌』通巻第 251 号, 鴻儒堂出版社 『階梯日本語雑誌』通巻第 251 号, 鴻儒堂出版社 『階梯日本語雑誌』通巻第 250 号,	管理職の朝礼の挨拶	単	2008年8月	8月号 pp.38-41	鴻儒堂出版社
# 2008年6月 6月号 pp.38-41 鴻儒堂出版社 電話対応・受付・応接室で一応用編ー 単 2008年5月 日本語ジャーナル 5月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 252 号, 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける日本式名刺交 単 2008年4月 日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 251 号, 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける母付の仕方 単 2008年3月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 250 号,	わかりやすい説明の仕方	単	2008年7月	7月号 pp.38-41	鴻儒堂出版社
電話対応・受付・応接室で一応用編一 単 2008年5月 5月号 pp.38-41 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける日本式名刺交 単 2008年4月 日本語ジャーナル 4月号 pp.38-41 『階梯日本語雑誌』通巻第 251 号, 鴻儒堂出版社 ビジネスにおける母付の仕方 単 2008年3月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 250 号,	アフターファイブ	単	2008年6月	6月号 pp.38-41	鴻儒堂出版社
単 2008年4月 4月号 pp.38-41 鴻儒堂出版社 レジネスにおける母付の仕方 単 2008年3月 日本語ジャーナル 『階梯日本語雑誌』通巻第 250 号,	電話対応・受付・応接室で一応用編-	単	2008年5月	5月号 pp.38-41	鴻儒堂出版社
	ビジネスにおける日本式名刺交	単	2008年4月	4月号 pp.38-41	鴻儒堂出版社
	ビジネスにおける受付の仕方	単	2008年3月		

ビジネスにおける	電話のマナー	単	2008 至	푣2月			語ジャ 号 pp.8	ィーナル 86-89	『階梯日本語雜 鴻儒堂出版社	誌』通巻第 249 号,
初級中国語の導入	単	2006年6月			高等学校中国語教育 全国大会 pp.37		中国語教育	初級会話の効果的な定着と興味関心を高める ための,コミュニカディブアプローチに基づ く教室活動の実践例を示した.		
	研究業績()	過去3カ年分)				国際的活動		社会的活動	
著作数	論文数	学会等 発表数	 ₹	₹	の他			の有無	の有無	
0	0	1			0			有	有	
			=	学 内	運	営	業	績		
1 役職,各	種委員会等	2004年4月 2007年4月				入討	戊安報	委員会・委員		
(主要 10 件程	5 庫 /	2005年4月	~2007	年3月		教務	多委員	会・委員		
(工女101119	E <i>I文 /</i>	2006年4月	~2016	年3月		学生	:委員:	会・委員		
		2010年4月	~2016	年3月		地垣	は国際	交流委員会・	委員	
		2016年4月	~現在に	こ至る		学生	三・地場	域国際交流委	景会・委員	
		2016年4月~現在に至る			自己点検・評価委員会・作業部会・委員					
			=	学 外	活	動	業	績		
1 本学以外(の機関(公的	2005年7月				総合	演習物	特別講義(市	5立名寄短期大学	児童専攻)
機関・民	間団体等)を	2006年10月]			総合的な学習時間の指導(市立多度志中学校)				
通しての	活動	2007年5月,2011年11月			警察通訳(北海道旭川方面深川警察署)					
		2008年3月			総合的な学習における特別講義(深川東高等学校)					
(主要 10 件程	建度)	2009年9月			台灣	5八八7	水害とその義	終捐活動に関する	報告(深川東高等学校)	
		2010年9月			広報関係文書翻訳(深川市環境課)					
		2011年2月			高校生・保護者対象教育講演(公文旭川事務局・深川東教室)					
		2011年12月			小中高校生対象教育講演(公文旭川事務局・北光教室)					
		2014年3月	~2014	年 12 月		子どもの読書活動推進計画策定委員会・委員長(深川市生涯学習課)				
		2015年1月				小中高生保護者対象教育講演(公文旭川事務局・サニータウン教室)				
		2015年7月				台湾華語スピーチコンテスト(台北駐日経済文化代表処札幌分処)				
2 学会・学	術団体等の活	2000年4月						学会・正会員		
動		2002年6月							会・栄誉会員	
		2004年4月				深川国際交流協会・会員				
(主要 10 件程	建度)	2005年3月						学会・正会		
								-ラム・正会		
		2013年4月	~現在(こ主る		旭川	日白粉	見善協会・正	云貝	